

ごあいさつ

利益ある持続的成長への再チャレンジ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

ここに、株式会社トプコンおよびトプコングループの平成23年4月1日から平成23年9月30日に至る第119期中間期の営業の概況をご報告申し上げます。

当中間期における経済環境は、米国および欧州では、前半において景気は緩やかな回復基調で推移したものの、欧州における財政不安の影響等で、後半では減速に転じました。新興国群では、各国で状況は異なるものの概ね景気は好調に推移しました。一方、日本においては、東日本大震災からの経済活動の復興が始まり、欧米経済の減速や円高の進行等の不安要素がありますが、景気は概ね回復基調で推移しました。

当社グループは、「現在の変動期を飛躍の好機と捉え、グループ総合力を結集し、『利益ある持続的成長』に向け再チャレンジする」ことを目標に掲げ、「Reform & Enhancement」(事業構造の改革と強化)を旗印に、安定した収益基盤および健全な財務体質を早期に確立し、外部環境に左右されないより強固な企業体質に変革すべく取り組んでまいりました。

こうした中で、当中間期の連結業績は、次のようになりました。

売上高は、前年同期と比べるとアイケアビジネスが欧

州を中心に好調に推移いたしました。ファイナンスビジネスの市況の低迷と為替の影響等により、売上高は495億7千7百万円(前年同期



比0.2%の減少)となりました。利益面では、全社的に取り組んでいる事業構造改革による固定費の削減および原価低減の効果等により、営業利益は5億1千7百万円(前年同期比5億5百万円の増加)と改善し、経常利益は為替の影響等により損失とはなりましたが△6億8千8百万円(前年同期比1億4百万円の増加)と改善いたしました。中間純利益は投資有価証券の評価損を計上したこと等により、△19億6千万円(前年同期比6億6千5百万円の減少)の損失となりました。

中間配当につきましては、上記の業績を勘案し、1株当たり2円(前期中間配当2円)とさせていただきますので、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後ともご理解、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

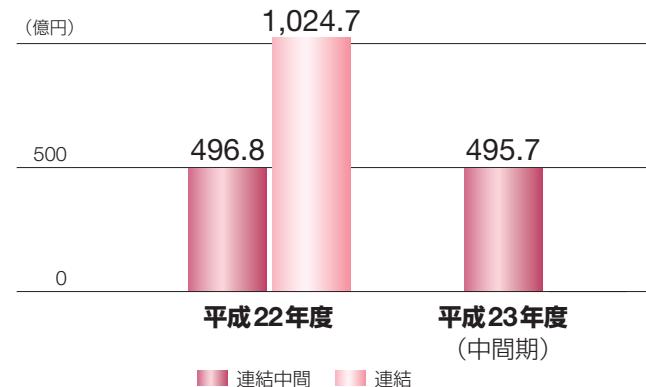
平成23年12月

代表取締役社長

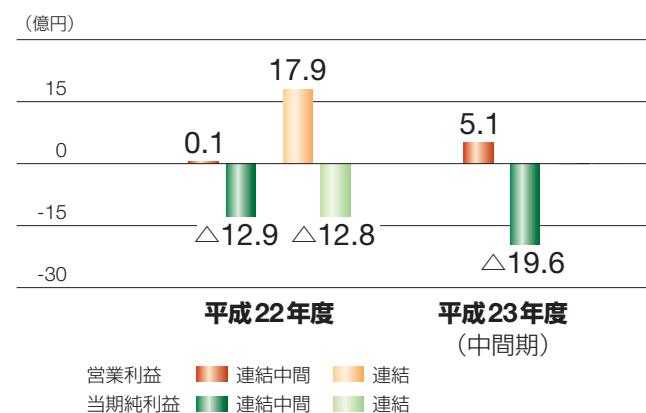
内田 憲男

財務ハイライト

売上高



営業利益/当期(中間)純利益(△損失)



会社概要

商号	株式会社トプコン(TOPCON CORPORATION)
本社・工場	東京都板橋区蓮沼町75番1号
電話	03-3966-3141(番号案内)
設立	1932年(昭和7年)9月1日
資本金	10,297百万円(平成23年9月30日現在)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
社員数	1,122名(平成23年9月30日現在)

ポジショニングビジネス

• 売上高
260億4百万円

• 営業利益
5億8百万円

世界をリードするGPS・トータルステーションなどの測量機器に加え、3Dスキャナーや車載型3Dモバイル・マッピングシステムへも注力。当中間期は、米国やアジア市場が伸長。

アイケアビジネス

• 売上高
156億2千万円

• 営業利益
4億2千4百万円

システムソリューションや先端眼科医療機器の開発、糖尿病スクリーニングなど、予防医学分野へ注力。治療領域へ事業拡大。当中間期は、欧州やアジア市場が伸長。

ファインテックビジネス

• 売上高
79億5千2百万円

• 営業利益(△損失)
△4億1千6百万円

半導体やフラットパネルディスプレイ (FPD) などの生産に欠かせない検査・計測機器に注力。当中間期は、半導体、FPD、プロジェクター関連製品の市況の落ち込みの影響を受けた。

株主メモ (平成23年9月30日現在)

発行可能株式総数 160,000,000株
 発行済株式総数 92,688,342株
 株主数 18,508名
 株主優待制度(年2回) メガネレンズおよびフレーム50%割引券(1,000株以上)(愛眼株式会社全国の各店舗で使用可能)
 事業年度の末日 3月31日
 配当金支払株主確定日 期末配当3月31日 中間配当9月30日
 定時株主総会 6月
 株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話照会先) 0120-78-2031(フリーダイヤル)
 取次事務は、中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

私たちの想い、それはアイケアを通して、世界中の人々の幸せに繋がること。

生活の質維持には視覚の質維持が大切

私達が外界から得る情報の80%は目から入ってくると言われています。健康で豊かな生活の質(Quality of Life)を維持するには、より良い視覚品質(Quality of Vision)の維持が大きく影響するため、眼の検査の重要性が高まっています。眼底は体内で唯一、血管を直接観察できる部位のため、動脈硬化や高血圧など、生活習慣病のスクリーニング検査にも役立ちます。



快適な視生活を提供するために

眼鏡店がお客様に対して快適な視生活を提供できるように、見え具合のシミュレーションのできる視力測定システムなど、さまざまな製品を提供します。



高齢化や情報化社会が進む今日、快適な「視機能」を維持することが重要視されています。トプコンのアイケアビジネスは、社会の人々のビジョン(健康で豊かな生活)、病院関係者のビジョン(高度で効率のよい診療提供)、眼鏡店のビジョン(お客様に満足いただける眼鏡の提供)など、「眼」に関わるさまざまな人々のビジョンや価値を結びつけ、より大きな価値を創出する各種検査・治療機器、ソフトウェア、ソリューションの開発・提供に取り組んでいます。



投資家情報(IR)サイトのご案内 <http://www.topcon.co.jp/invest/>

株主・投資家の皆様への適時適切な情報開示を心掛けております。決算情報等の詳細は、当社ホームページの投資家情報(IR)サイトに掲載されていますので、是非ご覧ください。

